

# WebClass を利用した英語教育の取り組み

教育推進総合センター

濱 田 陽

## A sample of teaching English by using WebClass

Yo HAMADA

**概要** 教育推進総合センターで取り組んでいる WebClass (E-learning ツール) に、その基本的な機能のみを用いる事で、授業がスムーズになり、学生の学習にもスムーズな道しるべができる。本報告では、英語教育の授業でどのように使用し、どのようなメリットが見られたかを報告する。

### 1. はじめに

秋田大学では、医学部において、2006 年に E-Learning システム WebClass の導入を開始し、1 年次の「情報処理」講義で使用、2014 年までには学部・大学院をあわせて十数科目程度に増加した (片平, 2014)。そして、全学的な導入を見据えて、2015 年度に、教育推進総合センターにおいて、当時主管である長谷川教授が中心となり、数多くの FD 研修を開催し、2016 年から全学を対象に WebClass の普及を図っている。同時に、秋田大学大学院医学研究科医学教育学講座においても定期的に FD 研修を行っている。(秋田大学 大学院医学系研究科 医学教育学講座, 2016) 本報告では、WebClass の基本的な機能を使うことで、授業や自律学習の効果的な促進を図った実践報告をする。

### 2. なぜ WebClass か

WebClass とは、Mac OS でも Windows でも環境を選ばずに利用ができる、便利な E-learning ツールである (WebClass, 2016)。機能は様々あり、各教員のニーズに対応してくれる。一度作成した教材は次年度や他講義にも活用でき、授業準備の効率化・負担軽減にも繋がる便利なツールである。(秋田大学, 2016)

近年、大学教員の仕事の多様化と多忙化に関し

てはおそらく納得する方が多いと思うが、限られた時間と能力の中で、研究と教育を効率的に進めていくためには、余分な時間を削ってその時間を有益に使う必要がある。その点において、WebClass の利用により、場合によっては週に何時間も捻出できるのである。たとえば、従来、学生に紙面での提出を課していたレポートにおいては、毎回の授業で回収し、一つ一つをチェックし、データ入力をしていた。実はこの作業、少人数クラスの 1 クラス程度であれば気にならないが、複数の大人数クラスを受け持つと、積算するとかなりの時間がかかっているのである。ところが、WebClass を用いて各学生がオンライン上で提出する形をとると、回収の手間は省け、一人一人が提出したかそうでないかは、自動的に集計される。さらに、教員が自分のタイミングでそのレポートをチェックして評価することができるため、効率的に時間を使用できる。

さらに重要なことに、近年、学生の授業外「学修」時間の確保と促進が重要項目としてあげられ、自律的に「学修」する学生の育成が求められている。著者の高校教員時代の経験と現在の学生の観察と会話からによるものではあるが、近年、高校では、先生から生徒への指導が非常にきめ細かくなってきており、課題の出し方や学習方法まで、丁寧に「ルール」を敷いて指導をしてきていると感じて

いる。それ故に、指示されたことはこなすことができるが、自ら考えて計画して行動する力は入学時には十分には備わっていない学生が多いと感じられる。その状況で、突然大学に入って自主性を強要しても、対応しきれない可能性があるが、そこで予習・授業・復習のサイクルを自然に生み出すために、WebClass は一役買ってくれる。たとえば、次の授業で扱う内容の予習が必要な場合には、時間外学修として課題を提示し、授業までに遂行するしかけを作ることで、予習から授業への橋渡しができる。復習に関しても同様に、課題を提示し、各学生がアップロードする形をとることで、ルールを敷くことができる。

### 3. 担当授業

E-learning やオンラインツールというと、非常に複雑で、使用をためらってしまう方が多いであろうし、著者もその一人であった。しかし、本年度から、「英語特別演習」「文系英会話」の授業で実際に使用したところ、意外なほど容易に、しかも効果的に使用する事ができたため、以下に、基本的機能を使用して、どのように導入するかについての、手順とその効果を記述したい。

「英語特別演習」「文系英会話」は、本学教育文化学部の英語教育コース1年生が主に履修する科目で、著者は前期後期それぞれ15回授業をする。前期が前者、後期が後者で、週二回開講される。いずれも教員二人で担当しており、著者は月曜日の授業を担当し、もう一方の教員が木曜日の授業を担当している。

学生は、毎週定期的な課題が課され、たとえば、毎週最低一度、本学独自の英語自律学習用スペース（ALL ROOMS<http://www.akita-u.ac.jp/allrooms/>）を訪れ、自分の弱い分野を学習することが課された。ALL ROOMS では、学生スタッフとの英会話・DVD 教材・各種資格対策・Graded Readers・学習法等多岐にわたって自分のニーズに合った学習を自律的にすることができる（濱田, 2013）。そして、学生は、毎週、取り組んだ事柄と学んだ事柄を、英語でまとめ期限の月曜日の授業前までにアップロードして提出する。さらに授業では、毎週日本人には困難とされる発音も扱うため、授業外で、オンラインサイト（English accent coach, 2016）（Phonetics, 2016）を利用し

て予習することも求められ、その学習内容も英語でまとめてアップロードすることが義務づけられた。

では、実際にどのような画面表示で、どのように管理するのかを示したい。本学では、教員も学生も、A-net という学生も教員も見ることができるオンライン連絡機能があり、一人一人がログインIDとパスワードを持っている。そのIDとパスワードをログインすると、WebClass にアクセスする際に再びIDとパスワードは求められない。オンライン形式のしかけを用いると、必ず数名の学生がパスワードとIDの不一致等の問題が発生するため、WebClass ではその煩わしい問題は発生しない。

教員のログイン画面に入ると、その学期にWebClass に登録されている時間割が、写真1のように表示される。登録は教員が行い、エクセルのファイルをアップロードすることで1分あれば容易に可能である。

授業科目名をクリックすると、写真2のように、その科目で課されている課題が一覧で確認できるようになっている。複数の課題を課した際に、教員がうっかりそのいずれかを忘れてしまう等のことは、防ぐことができる。ALL ROOMS Report & Pronunciation をクリックすると写真3のように、受講生全員の提出状況が一覧で確認できる。つまり、授業当日に回収し、それを教員のファイルに毎回チェックしない限り確認できなかった課題が、WebClass を使用する事で、だれが何回提出しているかが自動的に確認できるのである。

各受講生の詳細は、各受講生名をクリックすると、写真4のように、提出日時までが確認できる。（個人情報保護観点から、受講生名は削除している）日時まで明確に表示されているため、いったん期限を設定すれば、教員がわざわざチェックせずとも、自動的に提出日時が表示されるのである。また、学生から紙面で回収してチェックする方法を用いると、学生への返却後は、それを見返すことはできない。一方、WebClass では、学期中はすべてサーバーに保存されているため、期末が近くなった頃に最初の頃との進歩を容易に比較することができる。また、毎回紙面での提出を避けることができ、エコで環境にも優しい。

上記の課題は、eポートフォリオとして課して

いたが、さらに詳しく学習したい学生のために、資料を提供したい場合には、「資料」という項目も利用できる（写真5）。ここでは、発音学習に有益なウェブサイトを紹介したり、自律学習で使用する際のウェブサイトを提供したりしている。WebClassの便利な点は、各資料を学生がどのくらい利用したかが一目で分かる点である。従来の授業では、最も古典的なケースでは教員が板書して学生がそれを写したり、あるいはパワーポイント等で提示したものを学生が写したりしている。一方、WebClassの資料に紹介すれば、その手間は省け、浮いた時間を別の時間に回すことができるうえ、学生も取り組みやすい。そして、その資料を実際に学生が確認しているかどうか「学習履歴」で分かる。

もう一つの有益な機能は、学生側からはどのように見えるのかを「学生としてログインする」というボタン一つで確認できる機能である。著者も、学生への使い方の説明を準備する際に、この画面が役に立った。また、学生のページでは、各課題ごとに、自己評価、相互評価、教員評価の欄もあり、より深く活用しようとした際には、利用すること

ができる。（写真6）

#### 4. さらに効果的に

本報告では、基本的な機能を利用して、どれだけ効率的に学生の学習を促進できるかを提案しているが、もう少し手を加えるとどんな事ができるかについても言及したい。本報告では、少し複雑になるため紹介のみにとどめるが、成績の管理もすることができる。成績一覧も表示でき、問題ごとの成績表示や個人ごとの成績表示も可能である。加えて、アンケート集計もでき、出席の管理もできる。従来は別々であったものがすべてまとまった一つのサイト内で使用できるのである。

何より、一度ページを作成してしまうと、次年度も基本的に同じものをアレンジして使うことができるのが便利である。毎年使う教材であっても、「あの資料はどこにしまったか」と失念してしまうことが、著者は恥ずかしながらも時々ある。WebClassですべてを集約しておくことで、その無駄な時間も省くことができ、常に整理された状態で学生の教育に向かうことができる。

時間割表 2016 ▾ 前期 ▾ » 今日の時間割に戻る

	月曜日	*火曜日*	水曜日	木曜日
1・2時限				
3・4時限				
5・6時限				
7・8時限				
9・10時限	» 2016 英語特別演習			» 2016 英語特別演習
11・12時限				
13・14時限				
15・16時限				

写真1 時間割

コンテンツ一覧  
 > 資料 > e ポートフォリオ・コンテナ

ユニット

会議室

資料

- > Another pronunciation web link
- > Pronunciation link
- > Tune in radio

テスト/アンケート

e ポートフォリオ・コンテナ

- > 1 minute speech
- > 4 Essays on the textbook
- > ALL ROOMs Report & Pronunciation
- > Essay
- > Summer Study Report

写真2 課題一覧

e ポートフォリオ・コンテナ

ALL ROOMs Report & Pronunciation

作成者  
濱田 陽

最終更新日  
2016-04-18 15:00:14

学生一覧

検索

コンテナの解説

Write when you visited and how long you stayed.  
 Write what you learned during the stay.  
 Write which pronunciation features you worked on and what you learned  
 (4/25 liquid, 5/2 vowel front, 5/9 central, 5/16 back 5/23 fricative,  
 5/30 nasal, 6/6 glide, 6/13 affricative, 6/20 stop, 6.27 voiced, 7/4 voiceless

ゴール

ループリック

写真3 受講生 ALL ROOMs &amp; Pronunciation 提出状況

## e ポートフォリオ・コンテナ

## ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation

作成者

濱田 陽

最終更新日

2016-04-18 15:00:14

評価対象

## 学生一覧

検索

	(12)
	(12)
	(12)
	(12)
	(12)
	(12)
	(12)
	(12)
	(12)
	(12)
	(12)

## 説明

Write when you visited and how long you stayed.

Write what you learned during the stay.

Write which pronunciation features you worked on and what you learned

(4/25 liquid, 5/2 vowel front, 5/9 central, 5/16 back 5/23 fricative, 5/30 nasal, 6/6 glide, 6/13 affricative, 6/20 stop, 6.27 voiced, 7/4 voiceless

## 学習成果物

ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation 1

2016-04-25 10:08

ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation 2

2016-04-29 11:14

ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation 3

2016-05-07 12:43

ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation 4

2016-05-14 18:29

ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation 5

2016-05-22 18:56

ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation 6

2016-05-29 16:36

ALL ROOMs Report &amp; Pronunciation 7

2016-06-05 02:55

## 写真4 受講生詳細

## コンテンツ一覧

» 資料 » eポートフォリオ・コンテナ

## ユニット

» 新規作成 » 編集/削除 » 表示設定

» このページの先頭へ

## 会議室

» 新規作成 » 編集/削除 » 表示設定

» このページの先頭へ

## 資料

» 新規作成 » 編集/削除 » 表示設定

» Another pronunciation web link	濱田 陽 2016-04-25 09:40:31 » 編集	» 学習履歴[21]
» Pronunciation link	濱田 陽 2016-04-15 18:19:21 » 編集	» 学習履歴[216]
» Tune in radio	濱田 陽 2016-05-16 21:17:53 » 編集	» 学習履歴[8]

» このページの先頭へ

## テスト/アンケート

» 新規作成 » 編集/削除 » 表示設定

» このページの先頭へ

## e ポートフォリオ・コンテナ

» 新規作成 » 編集/削除

» 1 minute speech	濱田 陽 2016-07-25 15:54:05 » 編集
» 4 Essays on the textbook	濱田 陽 2016-07-25 15:51:37 » 編集
» ALL ROOMs Report & Pronunciation	濱田 陽 2016-04-18 15:00:14 » 編集

## 写真5 資料画面



The screenshot displays a web interface for evaluation. It contains five main sections, each with a title bar, a list of items, and a 'Show' button:

- ゴール (Goals):** A title bar, a list box, and a '表示' (Show) button.
- ループリック (Rubric):** A title bar, a list box, and a '表示' (Show) button.
- 自己評価 (Self-evaluation):** A title bar, a count '計 0 件' (Total 0 items), a list box, and a '表示' (Show) button.
- 相互評価 (Mutual evaluation):** A title bar, a count '計 0 件' (Total 0 items), a list box, and a '表示' (Show) button.
- 教師評価 (Teacher evaluation):** A title bar.

資料6 自己評価・相互評価・教員評価欄

## 5. おわりに

WebClass やオンラインツールの仕様に対して、正直なところ、著者は今まではアナログでおこなってきたため「知らない」ということだけで、始める前までは抵抗があった。しかし、今年度から使用を開始してみたところ、そのためらい自体が、効果的な教育の展開の妨げとなってしまうことにも気がついた。複雑な使用をしなくとも、ごく基本的な機能を使うことで、学生の「時間外学修」を促進し、予習、授業、復習の自然なレールを敷くことができた。それと同時に、従来費やしていた時間をカットすることができるため、その分を学生の教育や研究の時間に割くことができる。ペーパーレスに貢献することもあり、まさに win-win の状況である。次年度からは、もう少し複雑な機能にも挑戦し、さらに効率的に使用していきたい。

最後に、二年間教育推進総合センターの主管と

して、E-learning/WebClass の普及に尽力して下さった長谷川先生の熱い想いなしでは、今回の試みはなかったため、感謝の意を表したい。

## 引用・参考文献

- 秋田大学 大学院医学系研究科 医学教育学講座 <http://akita-med-edu.com/whats-new/20160401-00245/>
- 秋田大学 (2016) 秋田大学 WebClass. <http://www.akita-u.ac.jp/kcenter/develop/webclass.html>
- 片平昌幸 (2014) 秋田大学医学部における E-Learning 利用教育の現状報告『2014 PC Conference』
- 濱田陽 (2013) The ALL Rooms の現在と未来『秋田大学 教養基礎教育研究年報』15, 11 – 19
- English accent coach (2016) . <http://www.englishaccentcoach.com/play.aspx>
- Phonetics (2016) . <http://soundsofspeech.uiowa.edu/english/english.html>
- Webclass (2016) <http://www.webclass.jp/>